

基盤的防災情報流通ネットワーク(SIP4D)の高度化

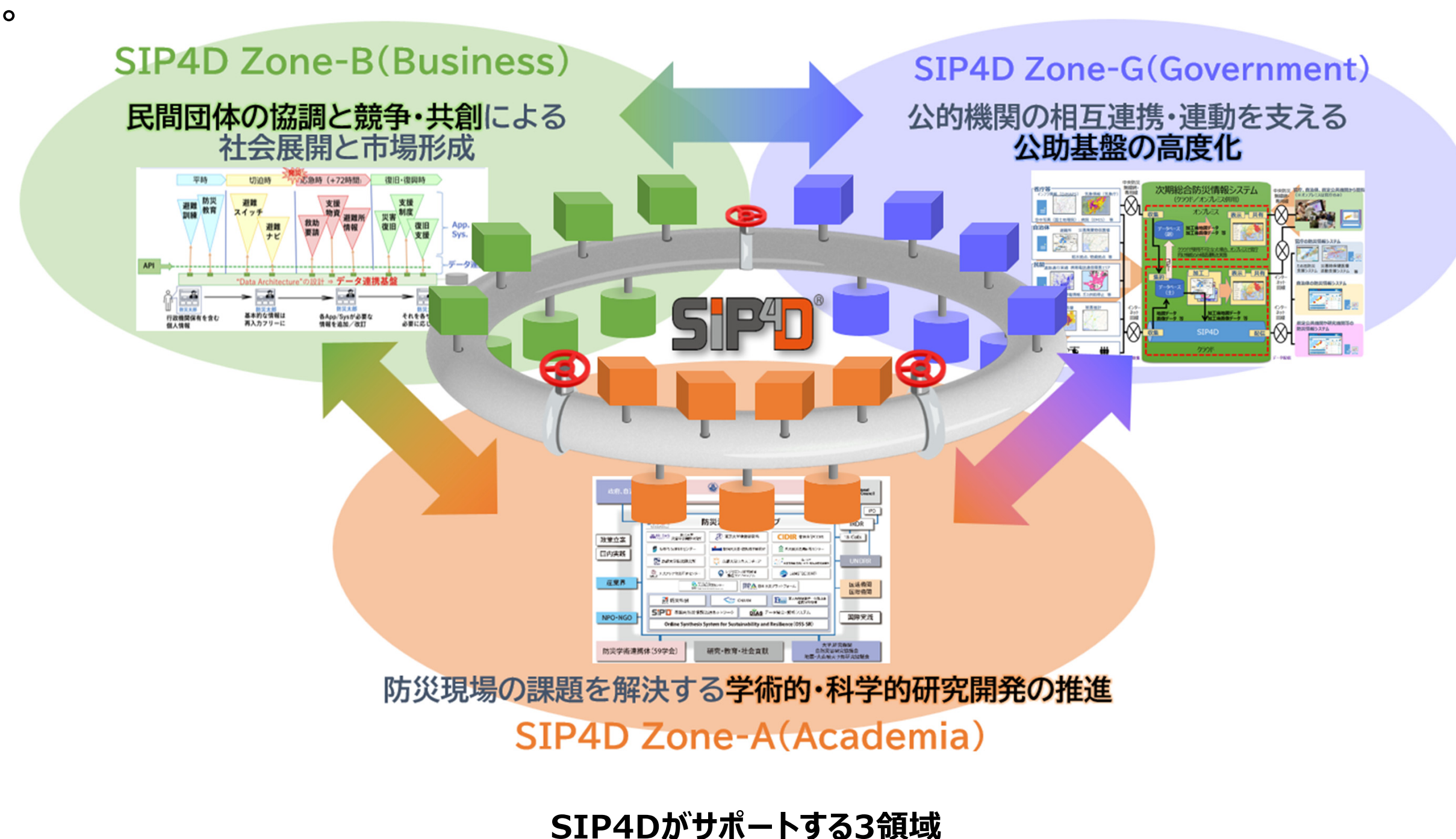
社会防災研究領域 総合防災情報センター／防災情報研究部門 宇野 篤也

Point

- SIP4Dは災害対応機関同士の情報共有を可能にする基盤システム
- 基本機能が内閣府新総合防災情報システムに取り込まれ2024年度から運用を開始
- 今後、SIP4Dは研究開発基盤としての機能の高度化を進める

概要

SIP4D (Shared Information Platform for Disaster Management) は、災害対応に必要とされる情報を多様な情報源から収集し、利用しやすい形式に変換して配信する機能を持った、組織を超えた防災情報の相互流通を担う基盤的ネットワークシステムである。その基本機能は、内閣府新総合防災情報システムに取り込まれ2024年度から運用が開始されている。新総合防災情報システムが稼働したことから、SIP4Dはその軸を研究開発に移し、最新機能の開発・実装、テスト環境の提供などといった研究開発基盤としての機能の高度化を進める。



SIP4Dの現在のサポート領域を運用形態毎に、1. 研究開発（Academia）、2. 公的機関（Government）、3. 民間（Business）の3領域に分割し、それぞれの領域を一体的なパイプラインとして結合する。運用とシステムの高度化を並行して実施し、その成果を逐次各領域に反映、陳腐化の防止を図る。

防災科研は、Zone-A において研究開発基盤として SIP4Dの研究開発・高度化を進める。

- ・ 防災情報ハブとしての機能：防災情報を網羅的に管理し、検索機能を強化
- ・ システム運用技術の強化：システム監視機能やユーザ管理の強化。各種処理の高速化
- ・ 配信データの利活用：収集した情報を活用したテストベッド環境の提供。外部システムとの連携

今後の展望・方向性

SIP4Dの社会実装として内閣府の新総合防災情報システムにその機能が実装され運用が開始されたことにより、SIP4Dは学術的・科学的な研究開発基盤として様々な技術を開発・検証することが可能となった。防災現場の課題を解決するために、様々な先進的な技術の開発・実装を進めていきたいと考えている。

